

海に念ずる

市の鳥「ユリカモメ」を肩にした屈強な若人が、熱情あふれる眼ざしを太平洋に向けて立つ。その清い瞳には、海に生きる勇者の気概と、幾多の犠牲者の霊を慰める慈しみの光がある。水産焼津を象徴することの顕彰碑は、関係者が相図って海の顕彰碑建設委員会を発足させ、焼津・小川両漁業協同組合を核に、広く乗組員にも呼びかけて建立された。細谷泰茲先生が三か年を費して製作され、自ら「蒼海行」と名付けられたこの像は、まさに水産焼津の心意気そのものである。

海に生きる者への顕彰、不幸にして海に消えた尊い犠牲者への慰霊、平穏無事の航海祈念、そして、豊漁を期す心がにじみ出ている。

焼津港に出入する船舶はもちろん、これを仰ぎ見る万人ごとくが、海の生業の厳しさに敬虔の真心を捧げ、焼津快哉を叫ぶであろう。その雄叫びが連綿と続く中にこそ、焼津の命が躍動する。

時移り、年経るとも、焼津は海と共に明け暮れる。しよせん海の吉凶が市況に響く海の街なのだ。八丁櫓の昔に固執はしないが、海の香が育てた気概は受け継いで行かねばならない。焼津祭りの「アエットン」の掛声こそ、焼津に生を受けた者の心の活であり、海に挑む原動力なのである。

海よ静まれ、霊よ鎮まれ、漁民よ励め、魚よ増えよ、そして、栄養源となって人の世を榮えしめ給え。 未来永劫に

昭和五十八年三月

焼津市長 服部 毅 一



海の顕彰碑（細谷泰茲氏作）

昭和55年7月製作開始

昭和58年3月29日竣工

海のシンボルとして地上17
メートルの中天に金色に輝く。

台座の碑文と揮毫を頼まれ
「海に念ずる」と題し成文
して墨書する。

この日、全国市長会水産都
市協議会（会長北海道稚内
市長浜森辰雄）を焼津で開
催、顕彰碑除幕式にもご参
列いただいた。

（出典）

題名 「続々 書き溜めおき候」
著者 「服部 毅 一」 から抜粋